

平成 16 年 1 月 28 日

ゼラチンの米国からの輸入について

牛骨ゼラチンは多くの医薬品でカプセル剤、添加剤等に汎用されております。医薬品に使用されているゼラチンは 75% が牛骨由来(年間 2,400 t)です。その牛骨の 100% は外国の輸入に依存しております。更に米国産は約 30% を占めており、大きな原料供給国となっています。ゼラチンは輸入量も多いことから短期間で米国産原料を他の安全国に切替えることは難しく、一定の経過措置期間が必要である。

日本での牛骨ゼラチン消費量	18000t
うち医薬品での消費量	2400t
米国牛骨輸入量	5400t
米国牛骨輸入割合	約30%

平成16年1月28日

コンドロイチン硫酸ナトリウムの米国依存について

日本国内でのコンドロイチン硫酸ナトリウム「内服用」の年間の市場への供給は約94tです。その中でウシ由来のコンドロイチン硫酸ナトリウムは約28tです。28tのコンドロイチン硫酸ナトリウムの製造に必要なウシ気管は約1,400t（収率約2%）です。1,400tの気管を得るのに必要なウシの頭数は4,000,000頭（約350g気管/頭）となります。

アメリカ合衆国でのとさつ頭数は約25,000,000頭であり十分な量が確保できます。一方、オーストラリアでは約8,000,000頭です。日本国内の需要を満たすためにはオーストラリアでの約50%を用いなければならなくなりますが、コンドロイチン硫酸ナトリウムは世界的に需要のある製品ですので、オーストラリアのウシを日本の市場を優先して使用するということは不可能であり、オーストラリア以外の国からの供給を確保しなければなりません。そのためには今後もアメリカ合衆国のウシに期待しなければならないところがあります。

また、オーストラリアを含め他のBSE安全国からのウシ気管の供給先を検討し、入手しなければなりません。ウシ原料の場合はBSE問題がありますので、供給先の検討から入手までは早くても2年は要するものと考えられます。その間はアメリカ合衆国の安全が確認されたウシを用いる必要があります。

日本国内でのコンドロイチン硫酸ナトリウム「注射用」年間の市場への供給は約10tです。その中でウシ由来のコンドロイチン硫酸ナトリウムは約2t（必要なウシ頭数は約400,000頭：精製度が上がるため多めに必要）です。注射用の場合は内服用に比べて量的には少なく、優先的にオーストラリア産を用いることは不可能ではないと考えられますが、新たに供給先の検討から入手まで最低でも2年間は必要となります。

	内服用	注射用
日本国内の需要量	28t	2t
米国からの輸入量	26t	1.8t
米国の輸入割合	約90%	約90%
ウシ気管の必要量	1400t	140t
必要なウシ頭数	4,000,000頭	400,000頭

以上

平成 16 年 1 月 28 日

コール酸のアメリカからの輸入について

現在、世界におけるコール酸の生産量は約 450 トンです。

全てのコール酸はウシ胆汁から製造されますが、ウシ胆汁は、アメリカ・ブラジル等複数の国で収集されており、各国で収集されたウシ胆汁は海外の加工会社（主要は 3 社）で一度プールされた後、コール酸に加工されていることから、世界に存在するコール酸は全てアメリカ産胆汁が含まれています。よって、国別のコール酸の生産量は、その国における胆汁の生産量に比例すると仮定し、日本のアメリカ産胆汁由来のコール酸輸入量は、アメリカにおける胆汁の生産量から算出しました。

アメリカで収集される胆汁は世界の約 40 % に当たりますが、アメリカ産胆汁は他国より品質がよいため、純度換算ではコール酸として世界の約 50 %に相当いたします（約 225 トン）。

日本に於けるコール酸の輸入実績（換算）は 2003 年度で約 198 トン であり、世界の生産量の約 44 % に相当します。

日本が輸入しているコール酸は、その半量をアメリカに依存しております。
また、現在世界のウシ胆汁の収集可能先はほとんどすべて収集されており、今後の収集量の拡大は望めないのが現状です。

以下にコール酸の生産量、輸入量等を表でまとめました。

世界のコール酸生産量	約 450 t		現状は、450 t 全てのコール酸 の製造にアメリカ 産胆汁が使用 されている。
アメリカ産胆汁由来コール酸の 生産量（換算）	約 225 t	世界の約 50 %	
日本に於けるコール酸輸入総量 （換算）	約 198 t	世界の約 44 %	
日本に輸入されているアメリカ 産胆汁由来コール酸量（換算）	約 99 t		

以 上